
4月の普及活動状況

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援担当の取り組み～



岐阜県農政部農業経営課

＝ 目 次 ＝

ダイジェスト版・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

各農林事務所農業普及課

岐阜農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

西濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

揖斐農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

中濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

郡上農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

可茂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

東濃農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

恵那農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

下呂農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

飛騨農林事務所農業普及課・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

農業経営課技術支援担当

農業経営課技術支援担当・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

< 4月普及活動状況ダイジェスト版 >

新たな産地づくりの推進 ～活力ある新産地づくり～

岐阜農林 **アスパラガス生産性の向上による安定生産を！**

農業普及課では、夏芽収穫に向けて立茎栽培講習会や現地検討会を実施し、長期安定生産確立を図っている。さらに、アスパラガス新規栽培者の確保にも取り組みを進めており、本年度は岐阜地域管内での栽培面積（ハウス面積）が1haに達する見込みである。農業普及課では特に低コスト生産に力を入れて、技術の普及に取り組んでいる。



【写真：立茎の講習会風景】

郡上農林 **ポット苗の定植スタート**

昨年度、自家採苗し雪下で越冬させたポット苗の定植が4月中旬よりスタートした。ポット苗の越冬は、当産地としては初めての経験であったが、苗の状態は概ね順調で予定どおり定植作業が進められている。農業普及課では、農業技術センターと農業経営課（技術支援支援担当）と連携しながら、苗管理やほ場準備の指導を行っている。

東濃農林 **野菜づくり塾開講（ブロッコリー産地化への取組）**

4月19日に野菜づくり塾の開講式が行われ、受講生27名が参加した。今年度は、4月～7月トマト、7月～11月ブロッコリーの講座を実施する計画となっている。

農業普及課は、講座内容や実践ほ場の企画・設計支援を行うとともにブロッコリー栽培の講師を努める。受講生全員が受講をきっかけに瑞浪市農産物等直売所の常時出荷者になることを期待している。

恵那農林 **新たなクリ生産拠点「笠置山栗園1ha」誕生！～28年度迄に20ha規模へ整備拡大予定～**

恵那市中野方町の笠置山中腹、グリーンピア恵那跡地に1haのクリ園「笠置山栗園」が開園した。4月2日には、地元有志20名で設立した「笠置山栗生産組合」主催による植樹祭が開催され、地元住民・JA・市・県関係者等約100名が記念植樹を行った。

今回誕生した1haは試行的な第1期整備分で、市営事業により24年度迄に5ha、その後は県営事業が引き継ぎ28年度迄に20haが整備され、国内有数のクリ生産拠点が誕生する計画で、市の遊休地活用や地域雇用拡大にも期待される。

農業普及課では、1年前から地域の合意形成支援や担い手育成面や栽培技術面からの支援を行ってきており、今後も継続的に組合に対する技術指導等を行っていく予定。

東美濃クリ産地では、5年前から産地拡大プロジェクト活動を展開中で、笠置山栗園1haも含めこれまでに33ha弱の面積拡大が進み、着実に取り組みの成果は上がりつつある。



【植え付け方法について指導】

飛騨農林 **「飛騨黄金」新規栽培者を対象とした研修会の開催**

JAひだ花卉出荷組合主催による新規栽培者を対象とした黄色輪菊「飛騨黄金」のほ場準備研修会（3月30日、参加者22名）、定植研修会（4月12、13、15日、参加者28名）、摘心研修会（4月22、25、26日、参加者30名）が開催された。

今年は春の低温により苗の発根が遅れ、苗配布や定植時期が遅れているため、農業普及課からは適期に出荷するためには摘心時期が重要であることを強調して指導した。研修会に参加した新規栽培者は、儲かるキク作りを目指して、熱心に研修を受けていた。



【植え付け方法について指導】

主要農産物の生産振興 ～売れる農産物づくりと産地の強化～

揖斐農林 新茶の手摘み体験、美濃いび茶をPR

4月29日に池田町で(農)美濃いび茶宮地生産組合と養老鉄道が連携して、美濃いび茶の手摘み体験が行われ農業普及課が支援を行った。当日は、一般消費者30名が参加し、手摘み体験や工場見学(手揉み実演、新茶試飲)を通して茶に親しみ、摘み取った新茶の芽は天ぷら用として持ち帰ってもらった。近年一般家庭における日本茶離れが顕著であり、このような取り組みを助長し、茶に親しんでもらうことで消費拡大への一助となればと考えている。

一方、本年の生育は春先からの低温の影響により例年になく茶の摘採期が遅れているため、病虫害防除・適期摘採が重要となることから、生育状況の把握や情報提供により、高品質生産への支援を行っていく。



担い手の育成確保～明日の農業を担う新規就農者と地域農業を守る多様な担い手育成～

中濃農林 ブルーベリー加工品直売店の開設

4月21日に開店したJAめぐみの「とれたっひろば関店」に、美濃市のブルーベリー認定農業者の加工品直売店「Blueberry garden 紫屋」が開設され、自家製のブルーベリージャムを使った焼きドーナツ、ソフトクリームなどを販売している。

経営者は、平成15年からブルーベリーの生産を開始した青年農業者であり、現在55aの規模をさらに拡大し、自ら生産・加工・販売に取り組むことで所得向上を目指す認定農業者である。

農業普及課では、農業経営改善計画の作成、直売店開設に必要な経費への農業制度資金の活用をはじめ、菓子づくり研修会を開催し、プロ菓子職人の技術を商品化に活かしてもらうなど、生産・加工・販売を一体的に支援してきた。今後とも、



【ブルーベリー加工品直売店販売の様子】

6次産業化による産地収益力の向上を目指す取り組みを支援していく。

地域の動き等 ～魅力ある農村づくり～

郡上農林 山菜栽培講習会を開催

郡上市朝市連合の栽培講習会を4月13日(八幡町)、25日(白鳥町)に開催し、農業普及課が講師となって前半はトマト、なす、後半は山菜の栽培について説明を行なった。

特に山菜は郡上の特産品づくり、耕作放棄地対策として年々栽培面積が増えており、誰でも栽培できる品目として農業者の高い関心を集めている。



【山菜栽培講習会の様子】

可茂農林 「集落営農担い手発掘サポート事業」現地集落説明会

小規模・高齢者集落における担い手育成・確保のため、県職員のマンパワーを発揮して集落活動支援を行う標記事業について、白川町下佐見・室山集落がモデル地区候補として選定され、3月26日に白川町室山公民館において標記説明会が開催された。当該集落農業者からは、農業の担い手確保をはじめ集落活動活発化への期待感が伺えた。

～農林事務所農業普及課、農業経営課技術支援担当の取り組み～

岐阜農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月28日現在

今月の重点活動

アスパラガス生産性の向上による安定生産を！

農業普及課では、夏芽収穫に向けて立茎栽培講習会や現地検討会を実施し、長期安定生産確立を図っている。さらに、アスパラガス新規栽培者の確保にも取り組みを進めており、本年度は岐阜地域管内での栽培面積（ハウス面積）が1haに達する見込みである。農業普及課では特に低コスト生産に力を入れて、技術の普及に取り組んでいる。



【写真：立茎の講習会風景】 【写真：立茎中のハウス】 【写真：新規栽培者定植の様子】

主要農作物の生産振興

■麦 小麦出穂遅れ・赤かび病防除啓発

農業普及課では、管内の小麦栽培地域（岐阜・羽島・本巣）におけるの出穂・生育状況の調査をJAと連携して実施した。出穂は平年より3～4日遅れの4月19日頃となった。調査後、赤かび病防除資料をJA・生産組織に提供し、高品質生産のための防除啓発を行った。

■いちご パッキングセンター自主運営で継続

昨年度に補助事業により試験稼働していたJAぎふのいちごパッキングセンターは3月に事業終了したため、4月からは自主運営により継続稼働を行っている。利用料金は45円/パックであるが、パッキングセンターがないと出荷調整作業が間に合わないため、6名の生産者が利用を継続した。利用生産者からは、「料金は高いが、今後も利用したいので、来年度産稼働をしてほしい」と要望が上がっている。

■いちご 農商工連携事業の動き

出荷最盛期に収穫調整作業が間に合わないため、廃棄せざるを得ない、いちごが発生する。そのため、廃棄いちごの利用方法について昨年より農商工連携事業を活用し岐阜商工会議所と連携して、業務用いちごとしての利用を進めている。

今回は、いちごの出荷終了後も利用出来るよう、1次加工（へた取りと冷凍）を育児ママの団体（NPO）に委託して実施した。今後は、生産者等における業者への営業活動を支援し、業務いちごの流通システムを構築していく。

■えだまめ GAP実践支援

昨年よりJAぎふえだまめ部会ではGAPを導入しており、農業普及課では栽培研修会等を通じて、GAP実践の支援を行っている。（4月 延べ175名）

■だいこん 祝大根（いわいだいこん）増産に向けて

祝大根の増産のため生産者に対してアンケート調査を実施した。今後、アンケート結果をもとに増産支援計画を検討する。

■だいこん **春大根の品質向上に向けて**

4月上旬の出荷品に空洞症が多発したため、実態把握のためのアンケート調査を実施した。（1月の低温、乾燥が要因と思われる）

■柿 **接ぎ木による品種更新の推進！**

管内の柿産地では「西村早生」、「刀根早生」から「早秋」、「太秋」、「富有」等への品種更新を進めており、3月下旬から4月上旬にかけ農業普及課が各地域で接ぎ木講習会を開催して技術指導を行った。

■花き **生育障害等について現地対応を実施**

管内の花き生産者は場（4品目）において発生した病害症状の現地確認を行った。病害症状原因究明のため農業経営課（岐阜駐在）と連携し実施し、その結果に基づき、対処など生産者に対する支援を行った。

担い手の育成・確保

■女性農業経営アドバイザー **管内では1名が新規認定**

県女性農業経営アドバイザーの感謝状贈呈式・認定証交付式が4月14日に中濃総合庁舎で行われ、管内の櫻井千佳子さん（各務原市）が認定された。櫻井さんは、県内の新規認定者11名を代表して、「女性農業経営アドバイザーとして誇りを持って活動したい。」と誓いを述べた。今後、管内アドバイザーとともに農業女性のリーダーとして活動を行う。なお、管内の感謝状贈呈者は4名（県内14名）



【写真：誓いの言葉を述べる櫻井千佳子さん】

■青年農業士 **岐阜地域青年農業士連絡協議会総会を開催**

岐阜地域青年農業士連絡協議会総会が4月13日に開催された。23年度は役員改選があり、新会長等の役員が選ばれた。また、新会員が3名増え20名となった。

今後、地域の青年農業士の活動支援を行う。

地域の動き等

■岐阜市 **（直売所「おんさい広場」出荷者対象の栽培研修会を開催**

おんさい広場では各地域協議会単位で栽培研修会が開催され、夏野菜の栽培管理や農薬の適正使用について指導した。

今後、出荷品目及び出荷量の拡大に向けて、作付け予定品目の調査や（地域によっては）単位協議会ごとに「園芸塾：栽培講習会」が実施される予定となっており農業普及課としても支援を行う計画である。

■岐阜地域 **今年度活動について関係機関の連携を図る）**

J A ぎふ、全農、農業普及課の担当者により今年度の水田農業に関する活動計画について情報交換を行った。また、土づくり肥料の散布推進、ぎふクリーン農業の生産登録拡大、小麦品種「タマイズミ」の生産拡大等の支援を行っていく。

西濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月30日現在

主要農作物の生産振興

■ 水稲

水稲作付け始まる

海津市では、あきたこまちの田植えが4月10日に始まった。今後、ひとめぼれ、コシヒカリ、あさひの夢、ハツシモの順に、6月上旬まで田植えが行われる予定である。農業普及課では、低温気味のなかでの育苗に対し、浸種、催芽を十分に行うように呼びかけている。

鉄コーティング直播準備始まる

大垣市と養老町で今年も鉄コーティングによる湛水直播が行われ、農閑期の先月末から鉄のコーティング作業が行われた。農業普及課では作業が適正に行われたかチェックを行っている。

■ 小麦

小麦の出穂と適期防除の推進

西濃管内の小麦は海津市のイワイノダイチを皮切りに順次出穂期を迎えた。イワイノダイチでは4月8～20日、農林61号は4月15～30日の出穂となった。これを受けて農業普及課から赤カビ病予防のための防除について、薬剤、作業日等の検討と情報提供を行った。

凍霜害の発生

平成21年産、22年産に引き続き、23年産でも凍霜害の発生が見られる。今年は3月に大垣市のアメダスデータで4回氷点下を記録するなど、冷気が溜まりやすいところでの発生が目立ち、1株で50%以上の穂が凍死しているなど、著しい被害を受けてところがある。



上 凍霜害ほ場全体（垂井町）
下 拡大した株 穂が出ていない周辺のほ場は正常に出穂している

■ トマト

トマトの出荷実績及び生育情報

3月下旬までの累計実績（3ヶ年対比）は数量98%、単価98%、金額96%であった。

生育状況は、灰色かび病の発生は少ないが、一部で尻腐れ果の発生が目立った。葉柄中硝酸イオン濃度の一斉分析では、数値が極端に低下していたため、メルマガ等で注意喚起を行っている。

葉かび病の発生状況

今年度から導入された葉かび病抵抗性品種「CF桃太郎J」や「CF千果（ミニトマト）」において、葉かび病が確認された。導入1年目から抵抗性が打破されたことになるため、農業普及課から病害の発生について注意をよびかけている。なお、異なる葉かび病抵抗性品種「麗容」、「ごほうび」では今のところ発生はない。

■ きゅうり

きゅうりの生育・出荷状況

3月下旬までの販売実績（対前年）は、数量：103% 金額：95% 単価：93%である。うどんこ病やアザミウマ類の発生が増加しているため、メルマガにより情報提供を実施した。

黄化えそ病について

黄化えそ病対策として、抑制から半促成栽培への切り替え時期の栽培管理状況、現在の発病状況の調査を全農家対象に行っていくこととなった。

■ アスパラガス

アスパラの立茎を開始

昨年的高温・病害による枯れ込みがあったほ場は、春芽の収穫期間を短くして、早めに立茎を行うよう指導している。

■ えだまめ

えだまめ栽培研修会

海津市で4月12日に栽培研修会を開催した。品種「湯あがり娘」の定植が始まっているが、凍霜害の心配があるので、ビニール被覆等は十分に行い、保温に努めるよう指導した。

■いちご

いちごの生育状況

4月上旬までの管内の出荷量は、パック数で前年比112%。

収穫が忙しくなったこともあり、親株の定植・管理はやや遅れ気味のため、農業普及課からは、適切な灌水管理、追肥の実施、株の整理などを指導している。

■カキ

獣害対策講習会

養老町果樹振興会で、県鳥獣害対策監による「猪鹿無猿柵」の講習会を開催した。農業普及課からは鳥獣害の対策支援メニューを示し、地域ぐるみでの受け皿づくりを啓発した。

■梅

鳥獣害対策

山沿いの梅園では、鹿による食害が増えている。農業普及課からは養老町梅園振興会に対し、地域ぐるみで対策を考えるよう啓発している。

■梨

受粉作業いよいよ本番

梨は各品種とも昨年より2～3日遅れて開花が始まった。

震災の影響で、受粉器用の電池が不足するというトラブルがあったが、関係機関の支援により必要数が確保できた。

■茶

一番茶やや遅れる見通し

2月の高温により萌芽は早く、大垣市上石津地区は萌芽期、不破は1葉期となっている。3月の低温で寒害が発生しているほ場があるため、一番茶の摘採は昨年よりやや遅れる見通しである。

■フランネルフラワー

春出荷ピーク

フランネルフラワー鉢花は、春出荷がピークとなっている。管内生産量は10万鉢程度で前年より微増した。震災の影響で価格は弱い。切花は4月下旬から出荷見込みである。



県鳥獣対策監による「猪鹿無猿柵」のモデル実演



山沿いの防護策



受粉作業の様子

担い手の育成・確保

■指導農業士

第32回総会開催

4月11日、指導農業士会西南濃支部では、第32回通常総会が開催された。震災発生を受け、例年の総会後の講演会を取り止め、義援金を送ることとした。

■集落営農組織

法人化に向けての動き

4月15日に垂井町の府中機械化営農組合の法人化に向けて、発起人会に提出する定款案について検討が行われた。また、登記を9月に行うための日程表も検討された。



総会の様子

地域の動き等

■農産物直売所（海津市の道の駅）

安全・安心な農産物の生産に向けて

クレール平田農産物直売所運営協議会及び月見の里南濃農産物直売所出荷者協議会の総会及び講習会が開催され農業普及課からは、安全・安心な農産物生産についての啓発を行った。



研修会の様子

揖斐農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月30日現在

今月の重点活動

■茶

新茶の手摘み体験、美濃いび茶をPR

4月29日に池田町で（農）美濃いび茶宮地生産組合と養老鉄道が連携して、美濃いび茶の手摘み体験が行われ農業普及課が支援を行った。当日は、一般消費者30名が参加し、手摘み体験や工場見学（手揉み実演、新茶試飲）を通して茶に親しみ、摘み取った新茶の芽は天ぷら用として持ち帰ってもらった。近年一般家庭における日本茶離れが顕著であり、このような取り組みを助長し、茶に親しんでもらうことで消費拡大への一助となればと考えている。



一方、今年の生育は春先からの低温の影響により例年になく茶の摘採期が遅れているため、病虫害防除・適期摘採が重要となることから、生育状況の把握や情報提供により、高品質生産への支援を行っていく。

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（かぼちゃ）

実証計画等を関係者で協議、新産地づくりが始動

土地利用型の法人経営に園芸品目（かぼちゃ）を導入し、新たな産地育成を進めるため、実証ほの設置について関係機関と協議した。農業普及課は管内3法人に協力を依頼し、試験区を設置、品種選定や栽培体系について検討し新産地育成に取り組む予定である。

■小麦

出穂状況確認、赤かび病防除情報提供

農業普及課は管内の小麦の出穂状況についてJAと連携して巡回調査を実施した。生育状況を把握した上で赤かび病防除情報を発信し、小麦生産者に防除徹底について呼びかけた。

今年は低温が続いたことから出穂時期が例年よりも1週間程度遅れ、多くのほ場で4月18日前後に収穫期を迎えた。4月下旬から5月上旬にかけて、開花初期の1回目防除とその10日後に2回目防除が実施されている。

凍霜害被害の確認と対策を支援

3月下旬に揖斐川町で最低気温が氷点下となる日が数日間記録され、それまで生育が進んでいた小麦ほ場の多くで、幼穂凍死による不出穂株が発生している。

気温が低い谷汲地区では被害程度が大きく、6割以上の減収が予想されるため被害ほ場の生産者に対して今後の対策について支援した。また、穂数減少に伴い、今後遅れ穂の発生が予想され、状況に応じた管理についても指導を行う予定である。

■大麦

4月中旬に出穂、赤かび病防除を実施

平成23年産から50haで作付けを開始した大麦「ミノリムギ」は4月15～20日に出穂期を迎えた。

開花期に1回目の赤かび病防除が実施されたが、今年は出穂期以降の天候が悪く、赤かび病の多発が懸念されることから、JAと追加防除について協議し、5月上旬に追加防除を行うこととし、生産者の理解を得た。



大麦展示ほ（揖斐川町）

■柿

「大野町かき振興会」通常総会を開催

4月26日に大野町かき振興会通常総会がJAいび川大野管理センターにおいて行われ、代表役員及び集落長など約50人が出席した。

すでに今年産の管理は始まっているものの、役員体制や振興会事業を審議する総会を契機に、生産者の意識統一と意欲の高揚を図ることが出来た。



瀬古地区で現地研修会を支援

4月27日大野町瀬古地区では、柿生産者現地研修会が行われ支援した。当地区では、毎年この時期に摘らい及び病害虫防除に関する研修を実施し、栽培技術の向上に努めている。近年、産地全体でフジコナカイガラムシの発生が増加傾向にあり、これが品質低下の一因となっているため、適期防除を行うよう指摘し、品質向上に向けた意欲を高めた。

■たまねぎ

早生玉葱目揃会・通常総会の開催

4月27日に大野町玉葱振興会の早生玉葱目揃会と通常総会が開催された。市場から出荷規格や留意点の説明が行われ、農業普及課から今後の栽培管理の留意点を説明した。

低温・早魃の影響で生育は遅れて小玉傾向であるが、病害虫は少なく作柄は良いと思われる。総会では大野町長とJA組合長が臨席し、生産拡大・品質向上等組合員の意識統一が行われた。

担い手の育成・確保

■新農相談

新規就農希望者への支援

新年度に入り、新規の相談案件が2件あり対応した。管内で土地利用農業を希望するA氏。また、管外からいちごで就農を希望するB氏、C氏。それぞれの意志決定の状況を確認しながら、関係機関及び生産組織と連携し支援を行う予定である。

■指導農業士、女性農業経営アドバイザー、青年農業士、4Hクラブ等

揖斐地区農業担い手リーダーの活動を支援

4月27日に揖斐地区指導農業士会の通常総会を開催。その後、各町役場担当者を交えて情報交換を行った。

西濃ブロック女性農業経営アドバイザー総会を4月18日に開催。今年度は新規認定アドバイザー5人を交え、自主的な活動の促進について支援を行う予定である。

青年農業士会、農業後継者クラブは4月19日に通常総会を開催。総会終了後は、両会で懇親会が行われ、将来の営農計画や地域活性化等について意見交換が行われた。

農業普及課では、担い手リーダーの活動を支援しながら、担い手の育つ活力ある揖斐農業について共に取り組みたいと考えている。

■女性起業グループ

女性起業（揖斐峡レディース）の経営診断を支援

平成22年度に農山村女性チャレンジ支援事業を導入した揖斐峡レディース販売部では、経営診断を行い、その結果報告会が開催された。農業経営課技術支援担当から分析結果の説明を聞き今後の方針について検討した。経営内容を把握、分析結果から見直しを検討したことで、メンバーの意識が変わり、販売額向上にもつながり、改善の方向が期待されている。

中濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月25日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援事業（さといも）

平成23年産円空さといもの植付け

植付けは、3月中旬頃から始まり、4月中旬までにはほぼ終了した。今年は、昨年と違い天候が良く、当初の予定通りに作業が行われた。

植付け後の気温が低く、例年は5月ゴールデンウィーク明け頃に萌芽が始まっていたが、このまま低温が続くようであれば、萌芽は例年より遅れるものと思われる。



植付け研修会で、機械植えを実演する生産者

円空さといもの出荷終了

3月末をもって、平成22年産のさといもの出荷が終了した。平成22年は、春先の低温による萌芽の遅れから始まり、夏場の猛暑干ばつ、さらに追い打ちをかけるようにハスモンヨトウの多発などがあり、やや不作の年であった。



植付け方法について指導

円空さといもの植付け研修会

3月25日に、円空さといもの新規栽培者と就農塾の受講生を対象に、植付け研修会を開催した。研修会では、農業普及課、JAめぐみの、中濃里芋生産組合が指導を行った。

瀬尻小の円空さといもの植付けを指導

4月12日に、今年で12年目を迎える、瀬尻小3年生のさといもづくり教室の植付けが行われ、学習の指導を行った。農業普及課では、飛騨美濃特産名人の杉山守冉さんとともに、植え付けから収穫まで8ヶ月程度かかるさといもづくりについて、引き続き指導を行っていく。



さといもの植付けをする小学生

主要農作物の生産振興

■小麦

出穂が遅れ気味

管内の小麦の生育は、3月以降の低温の影響により、前年に比べ草丈は低くなっている。

また、出穂は、前年は4月10日頃から始まっていたが、本年は4月20日頃から出穂し始めた。農業普及課は出穂の遅れに従い、赤かび病のラジヘリ防除も、前年に比べやや遅らせて実施するよう指導している。



小麦の生育状況

■いちご

いちごの生産販売状況

いちごの朝採り出荷が、4月11日から始まった。東日本大震災や計画停電の影響もあり、消費の動きが鈍く、品質の良い物でも1パック200円を下回る安値となっている。

4月に入り、平成23年産いちごの親苗定植が始まっており、農業普及課は今後の管理について情報提供を行った。

担い手の育成・確保

■ブルーベリー認定農業者の6次産業化の取り組み

ブルーベリー加工品直売店の開設

4月21日に開店したJAめぐみの「とれったひろば関店」に、美濃市のブルーベリー認定農業者の加工品直売店「Blueberry garden 紫屋」が開設され、自家製のブルーベリージャムを使った焼きドーナツ、ソフトクリームなどを販売している。

経営者は、平成15年からブルーベリーの生産を開始した青年農業者であり、現在55aの規模をさらに拡大し、自ら生産・加工・販売に取り組むことで所得向上を目指す認定農業者である。

農業普及課では、農業経営改善計画の作成、直売店開設に必要となる経費への農業制度資金の活用をはじめ、菓子づくり研修会を開催し、プロ菓子職人の技術を商品化に活かしてもらうなど、生産・加工・販売を一体的に支援してきた。今後とも、6次産業化による産地収益力の向上を目指す取り組みを支援していく。



ブルーベリー加工品
直売店の販売の様子

■JAめぐみの就農塾

開講式の開催

4月15日に、JAめぐみの就農塾の開講式が開催された。今年も、夏秋トマト、夏秋ナス、サトイモの3コースがあり、受講生は、それぞれ8、12、9名である。

農業普及課では、1年間を通して、サトイモの新規就農者の育成を支援していく。

■中濃ブロック女性農業経営アドバイザー

GLAMAいきいきネットワーク総会・研修会開催

4月14日、中濃総合庁舎において、岐阜県女性農業経営アドバイザーいきいきネットワーク通常総会及び研修会が開催された。1月から、中濃ブロック内で準備を進め、当日は、アドバイザー全員が役割を分担し、農業普及課で運営を支援した。

130名の出席者があり、研修会では、楽しくやりがいがあり、儲かる農業経営を実践している農村女性の講演(講師 兵庫県女性農業士 西馬きむ子氏)があり、出席者は熱心に耳を傾けていた。



兵庫県女性農業士の講演

地域の動き等

■水稻採種事業

美濃市水稻採種組合総会の開催

4月19日に、美濃市水稻採種組合通常総会が開催され、現地研修会や栽培研修会を通じて知識や技術の向上を図ることにより、異品種混入等をなくし、信頼のある種子生産への取り組み計画が承認された。

平成23年度は、前年並みの58.2haを作付し、244tの水稻種子を生産する計画であり、総会終了後、農業普及課から、優良種子生産を行うための土づくりや施肥について情報提供を行った。

郡上農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月30日現在

今月の重点活動

■山菜

山菜栽培講習会を開催

郡上市朝市連合の栽培講習会を4月13日（八幡町）、25日（白鳥町）に開催し、農業普及課が講師となって前半はトマト、なす、後半は山菜の栽培について説明を行なった。特に山菜は郡上の特産品づくり、耕作放棄地対策として年々栽培面積が増えており、誰でも栽培できる品目として農業者の高い関心を集めている。



山菜栽培講習会風景

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（夏秋いちご）

ポット苗の定植スタート

昨年度、自家採苗し雪下で越冬させたポット苗の定植が4月中旬よりスタートした。ポット苗の越冬は、当産地としては初めての経験であったが、苗の状態は概ね順調で予定どおり定植作業が進められている。農業普及課では、農業技術センターと農業経営課（技術支援支援担当）と連携しながら、苗管理やほ場準備の指導を行っている。



<定植直後のいちご苗>

■だいこん

ひるがの高原だいこん播種

4月15日から郡上市高鷲地内で、ひるがの高原だいこんのは種がスタートした。

今年の天候は平年より寒い日が続いているが、トンネルビニールに加え、国の補助事業で導入した保温資材で計画的なは種を行っている。

6月20日頃に目揃え会を行い、阪神・中京市場へ5,800tのだいこんを出荷される見込みである。



ひるがの高原だいこん

■トマト

郡上園芸生産振興会夏秋トマト部会全体研修会

郡上市のトマト生産者47名を対象とした全体研修会が4月15日（金）に実施された。産地の課題を解決すべく、品種特性と後半の草勢維持を図るための育苗管理の手法が研修テーマとされた。講師は種苗メーカーの担当者と農業普及課で務め、近年管理が甘くなっている温度管理について踏み込んだ研修を実施した。



夏秋トマト部会研修会

■大麦

生育調査を基に赤かび病適期防除を計画

農業普及課では、JAめぐみのと協力して大麦の生育状況調査を行い、今年の出穂が昨年と比較して1週程度遅れる見込みを立てている。

4月14日に開催された美並町麦作推進協議会では、赤かび病のラジコンヘリによる共同防除の日程を昨年より1週間程度遅らせるよう指導した。共同防除は5月2日と9日の2回実施される予定である。



麦作協議会で防除の協議

担い手の育成・確保

新規就農者育成研修

平成24年度の就農を目指し、認定就農者(2名)の研修が始まった。新規就農者育成事業を活用し、夏秋いちご農家の下で4~11月までの8ヶ月間の研修を行う予定である。農業普及課では、就農計画の実現に向けて栽培技術の習得や施設設備の準備等の支援を行う予定である。



<株整理を行う研修生>

地域の動き等

■郡上市高鷲地域

獣害フェンス耐雪試験

郡上市高鷲地域の上野・鷲見・切立地区のだいこん畑3カ所でシカやイノシシの獣害対策フェンスを設置し耐雪試験を行った。

融雪後の現況確認を行ったが、簡易版に比べ重厚版では周年設置に問題ないことを実証できた。

農業普及課では、郡上市役所高鷲振興事務所と連携し、だいこん圃場で獣害フェンスの耐雪試験の再現性を見極めと普及拡大試験を行う予定である。



切立地区の獣害フェンス

■郡上市白鳥町、大和町

特別栽培米の生産推進

4月22日、郡上市北部で活動を行っているおくみの特別栽培米コシヒカリ生産組合の総会が開かれた。当組合の生産するお米はJAめぐみの直売施設「とれったひろば」等で販売が好評だが、メンバーの高齢化により出荷量が減少気味である。

農業普及課では、昨年多発した夏期高温による白未熟粒の発生要因と対策など、品質向上のための情報提供を行った。

7月にも現地巡回により助言を行う予定である。



白未熟粒対策の情報提供

可茂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月28日現在

今月の重点活動

「集落営農担い手発掘サポート事業」現地集落説明会

小規模・高齢者集落における担い手育成・確保のため、県職員のマンパワーを発揮して集落活動支援を行う標記事業について、白川町下佐見・室山集落がモデル地区候補として選定され、3月26日に白川町室山公民館において標記説明会が開催された。当該集落農業者からは、農業の担い手確保をはじめ集落活動活発化への期待感が伺えた。

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（青ねぎ）

（定例会による情報交換）

坂祝町園芸振興会青ねぎ部会の月例会議が4月13日に開催され、「引き続き普及課題として重点的に取り組む」ことを伝えた。本年は低温乾燥が続く、ネギの生育が遅れ気味で出荷量も少なく、市場価格も大きく下落するなど課題の多いスタートとなった。トンネル栽培による温度測定結果をもとに被覆効果の確認や、プラグ苗による周年育苗の試みについて意見交換を行った。



生育の揃ったネギのプラグ苗

■水稻

（育苗期）

本年産水稻は、昨年の登熟期期間の猛暑の影響を受けた種もみの深い休眠による、育苗期の発芽不揃い等のトラブル発生が懸念されていた。管内のJA育苗センターを随時巡回して、例年より長めの種子浸漬による催芽について周知を図るとともに、は種状況・育苗管理状況等について担当者に確認し、必要な情報提供等を実施した。JA育苗担当者には上記の状況は周知され、これまで適切な管理を行っており、大きなトラブルは出ておらず、生育も概ね順調である。



水稻育苗管理状況の確認
(七宗町、4/19)

■トマト

（トマト収穫体験ツアー計画）

東白川村の地域活性化団体やトマト部会が、消費者を対象にトマトの収穫体験バスツアーを企画しており、東白川トマト選果場横のJAめぐみの水稻苗硬化ハウスを利用してトマトを栽培し、8月上旬の収穫体験ツアー実施に向け準備を始めた。今後、栽培管理やツアーの支援をしていく。

■いちご

（収穫期の状況）

夏期の高温により10日程度出荷開始が遅れたが、3月以降の好天で、3番果の出荷ピークは平年並みの3月下旬～4月中旬となった。農業普及課は今後、過熟果・スレ果・腐敗等を混入しないよう、着色基準の遵守・早朝収穫・選果選別の徹底を支援している。

■梨

（梨の開花状況）

梨の開花は例年より1週間程度遅く、品種による差も短く、ほぼ一斉開花となった。昨年の様な受粉時期に低温や降雨に遭遇した日が少なく、人工授粉後、順調に受粉している。今後の晩霜害に対して、生産者に一層の注意喚起を行う予定である。

■茶

（一番茶：芽の生育状況）

3月下旬から4月上旬にかけて低温傾向で降水がなかったため、一番茶の生育は平年より5日程度遅れている。中旬からは気温もやや高くなり降水もあったため、新芽は動きつつある。早場地帯と遅場地帯で大きな生育差は無いと思われる。今のところ凍霜害は出ていない。

■夏秋なす

(新規就農者2年目の挑戦)

昨年度の新規就農者が、なすのハウス栽培に挑戦し、4月17日に定植をおこなった。農業普及課では、ハウス建設に対して補助事業と就農支援資金利用にかかる支援ならびに、自家育苗をおこなうにあたっての接ぎ木や育苗管理について、指導を行った。

(可児夏秋なす生産組合栽培講習会)

4月14日に定植前から収穫時期までの栽培研修会を開催した。なすは「樹づくりと実づくりを長期に渡って行うものである」ことを強調し、栽培管理のポイントについて詳しく説明した。また、新規栽培者獲得のため、部会員以外にも働きかけたところ、興味のある農家4人が参加した。



なすのハウス栽培(定植の様子)

担い手の育成・確保

■集落営農組織

(農業生産法人「鱒淵営農組合」創立総会)

白川町鱒淵営農組合は、平成21年度から任意の集落営農組合として、水稻・大豆生産活動を行っていたが、農業生産活動の活発化と営農組織の経営安定に向け、4月3日に標記総会を開催した。来賓の町長等からは、中山間地域農業の維持・活性化における集落営農組織活動に対する大きな期待が寄せられた。農業普及課としては今後とも町・JAと連携し、組織活動の支援を継続する。



集落営農活動への期待を述べる今井町長

地域の動き等

■可茂地域

(FBC地方審査の実施)

4月11日に学校花壇コンクール(FBC)の地方審査を実施した。参加8校の花壇について、花壇の設計・生育状況・教育上の利用などについて審査し、優秀な5校を中央審査に推薦した。



生徒から管理の様子を聞く

■可児地域

(平成23年度さといも塾が始まる)

さといも塾は、可児市のブランド品づくりを目指して始まった就農塾である。さといもと季節の野菜の栽培について年間10回の講習会を開催している。今年度は45名が参加。3月17日の1回目の講座では、土づくりの講義と施肥・うね立てマルチがけの実習を、4月7日の2回目の講座では、さといも栽培の概要と種いもの植え付けの実習を行った。



実習状況をNHKが取材

(地元産大豆利用の特産品開発に向けた検討)

(有)土利夢ファーム可児は、可児市産大豆(フクユタカ)を使用した特産品開発として豆菓子製造・販売を検討しており、平成23年の夏までの商品化に向け検討を重ねている。そのため4月8、9日に奈良県内の豆菓子製造業者・大豆卸売業者及び商品パッケージ会社と製造販売に関する打合せを行った。農業普及課では、今後とも商品化に向けた開発支援を継続する。



製造業者(左)との打合せ
(於:奈良県)

東濃農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月30日現在

今月の重点活動

(瑞浪市農産物直売所出荷者協議会設立総会開催)

4月15日に、瑞浪市農産物直売所出荷者協議会設立総会が会員78人の出席により開催され、規約の承認、役員を選出等が行われた。直売所運営会社である(株)アグリに続き、農産物出荷団体が設立されたことで、24年春オープンに向けた体制づくりが一步前進した。

会長に選任された勝股氏は、「新鮮な農産物を消費者に年間提供できるよう努めたい」と挨拶された。

記念講演では、農業マーケティング研究所、山本和子所長が「夢は一人100万！ベンチャーで」と題し講演され、参加者の意欲の高まりが感じられた。

協議会活動として、6月16日から毎週火・木曜日に、瑞浪市内JA土岐支店で、プレ直売が開催され、出荷経験を積み重ねる計画である。

農業普及課では、総会開催に向け、講師を紹介する等支援してきたが、今後は、出荷者対象の栽培研修の企画等支援、出荷者の栽培計画作成など出荷者の育成支援を行う予定である。



総会の様子

主要農作物の生産振興

■水稲

(移植目前)

管内の育苗センターでは3月28日から播種がスタートした。農業普及課は、昨年の猛暑により水稲種子の休眠が深く、十分な浸種が必要な事等播種時の対策についてJAや主要生産者に対し注意喚起してきた。その結果、一部に出芽不揃の苗が認められたが、概ね良質な苗が生産されている。

管内営農組合は4月28日から田植えが計画されており、水稲生産が本格的に始動する。



出芽揃いの悪い苗

■トマト・なす

(育苗が始まった)

管内では、夏秋野菜の栽培がスタートしている。

5月のゴールデンウィーク前後に定植が行われる予定となっており、各農家では「鉢上げ」や「ずらし」の作業が行われている。

現在、目立った病害虫は確認されていないが、農業普及課としては病害虫の早期発見、早期防除を支援していくこととしている。



なす：育苗風景

■いちご

(いよいよ終盤)

いちご生産は終盤を迎えているが、管内のいちご農家では順調な販売が続いている。この時期になると過熟気味となるため、ハウスを開放して摘み取り体験等を行ったり、加工用出荷をするなどして対応している。

残り2ヶ月は栽培が継続され、収量が確保されるよう支援していく。

担い手の育成・確保

■瑞浪市

(野菜づくり塾開講)

4月19日に野菜づくり塾の開講式が行われ、受講生27名が参加した。今年度は、4月～7月トマト、7月～11月ブロッコリーの講座を実施する計画となっている。

農業普及課は、講座内容や実践ほ場の企画・設計支援を行うとともにブロッコリー栽培の講師を努める。

受講生全員が受講をきっかけに瑞浪市農産物等直売所の常時出荷者になることを期待している。



開講式の様子

■瑞浪市

(夏野菜研修会開催)

4月12日、19日に瑞浪市農産物等直売所出荷者協議会員を対象とした夏野菜研修会が開催され、延べ83名が参加した。

農業普及課は、6月16日から出荷者協議会がプレ直売への出荷を行うことを踏まえ、農薬の適正使用、栽培履歴記帳について説明し、安全な農産物づくりを指導した。



研修会の様子

地域の動き等

■3市

(アルファルファタコゾウムシ発生状況調査の実施)

例年実施されるアルファルファタコゾウムシの発生状況を調査した。3市4地点で調査を行ったところ、いずれもアルファルファタコゾウムシによる被害は確認されなかった。

農家からは、れんげ栽培のコツについて質問があり、同虫の生態に基づいた被害回避対策等説明した。

■瑞浪市

(マコモタケ栽培がスタート)

瑞浪市特産のマコモタケの定植作業が、4月24日に釜戸町平山地区で組合員の共同作業として行われた。

農業普及課は、平成22年度に栽培暦の作成支援を実施しており、今年度は同暦に基づいて栽培が実践されている。

今年度は、瑞浪マコモ生産出荷組合で約70aの生産が計画されている。



マコモタケの定植作業

■全域

(営農連絡会議開催)

4月21日に総合庁舎において、今年度の普及課題及び県の施策並びに市・JAの農業振興施策について、関係機関で共通認識を持つことを目的として営農連絡会議を開催した。

会議では、各機関の振興方針等について理解を深めるとともに、農地利用と担い手育成のあり方、地元農産物の学校給食利用の進め方等についても意見交換した。

恵那農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月30日現在

今月の重点活動

■東濃地域家畜防疫演習

鳥インフルエンザ発生に備えて ～花農家の空きハウスを使って防疫演習実施～

鳥インフルエンザの初動防疫作業演習を4月28日、中津川市阿木の花き生産者が所有する空きハウスを利用して実施した。

現地対策本部行動マニュアルが策定されたものの、実際に作業を行う上での問題点等を把握する必要があるとして、恵那農林事務所が中心となり企画、当事務所の他、東濃家畜保健衛生所、東濃農林事務所の主催で実施したもの。

演習では、早朝に農家から東濃家畜保健所に異常の連絡が入り簡易検査で陽性が確認されたとの想定で実施、恵那農林事務所や東濃農林事務所、東濃家畜保健衛生所、管内市役所職員ら約30人が参加した。

発生地班消毒担当の農業普及課は、消毒用の動力噴霧器や防護服など公用車に資材を積み込み現地向かい、東濃家畜保健衛生所の指導により、実際に防護服を着用し鶏舎に見立てたビニールハウスの消毒作業を行った。

半日程度の演習ではあったが、実際の作業を経験することができ、ゴーグルの曇り止めが必要、動力噴霧器の使い方をわかりやすくした方がよい、鶏舎ごとの作業マニュアルが必要などの意見が出され、今後改善を図っていくこととなった。



防護服を着用し薬剤散布の演習を行う職員ら

主要農作物の生産振興

■活力ある新産地づくり支援事業（クリ）

新たなクリ生産拠点「笠置山栗園1ha」誕生！～28年度迄に20ha規模へ整備拡大予定～

恵那市中野方町の笠置山中腹、グリーンピア恵那跡地に1haのクリ園「笠置山栗園」が開園した。4月2日には、地元有志20名で設立した「笠置山栗生産組合」主催による植樹祭が開催され、地元住民・JA・市・県関係者等約100名が記念植樹を行った。

今回誕生した1haは試行的な第1期整備分で、市営事業により24年度迄に5ha、その後は県営事業が引き継ぎ28年度迄に20haが整備され、国内有数のクリ生産拠点が誕生する計画で、市の遊休地活用や地域雇用拡大にも期待される。

農業普及課では、1年前から地域の合意形成支援や担い手育成面や栽培技術面からの支援を行ってきており、今後も継続的に組合に対する技術指導等を行っていく予定。

東美濃クリ産地では、5年前から産地拡大プロジェクト活動を展開中で、笠置山栗園1haも含めこれまでに33ha弱の面積拡大が進み、着実に取り組みの成果は上がりつつある。



記念植樹の様子

■飼料用稲

低コスト生産を目指して、各地で乳苗移植を試験

恵那地域では今年度、飼料用稲の作付を30ha予定している。農業普及課では、中山間農業研究所中津川支所及び営農組合等と連携し、低コスト・省力生産を目的として乳苗移植試験を管内7カ所で計画し、4月下旬から移植が始まった。

今後、定期的な生育調査を行い、技術の実証と普及性について検討していく予定である。



4/27：恵那市飯地営農組合による移植の様子

■トマト

樹熟トマトの栽培面積が拡大

中津川選果場から出荷されている樹上完熟型品種「麗夏」は棚持ちがよく、「赤くて硬い中津川麗夏トマト」として中京地区では高い市場評価を得る商品に育っている。また、葉かび病の抵抗性を持ち、裂果の発生が少ないなど生産面でのメリットも備えているため、平成21年から栽培面積が拡大しており、今年は3.6haで中津川選果場の4割が「麗夏」の作付けとなった。

今年度は中津川地域に加え恵南地区でも新たに栽培がスタートした。恵南地区では40aほどの面積が麗夏に変わり、生産者は麗夏の栽培が初めてであるための不安も多く、農業普及課では研修会を開催し、麗夏の特徴を生かした栽培ができるよう指導に努めている。今後は、市場や量販バイヤーとの情報交換会などの機会を通じて更なるブランドの確立に努めていく。



栽培研修会
苗の生育状況を確認

■たけのこ

飛騨美濃伝統野菜「瀬戸の筍」の出荷はじまる

「瀬戸の筍」は飛騨美濃伝統野菜に認証された品目で、中津川市内36名の生産者が20haを作付けし、長野県の市場、通信販売を含めた小売り、そして缶詰原料として加工業者へ出荷され高い評価を得ている。

今年も4月上旬から5月上旬にかけて収穫出荷され、集荷場はたけのこの風味豊かな香りに満たされている。

本年度、農業普及課ではこの「瀬戸の筍」を含めた飛騨美濃伝統野菜の栽培暦作成をすすめており、地域の特色ある農産物として生産振興に取り組む計画である。



丁寧に箱詰めされる「瀬戸の筍」

地域の動き等

■恵那市三郷地域

良品質種子生産に向けて～種子センター改修～

恵那市三郷地域では、三郷米麦採種生産組合が40年以上にわたり種子生産を行ってきたが、種子センター（乾燥調製施設）の老朽化が目立ってきた。そこで生産組合及びJA東美濃では、5台の乾燥機の更新と施設を改修することになり、3月末に工事が完了した。外観は、穂の秋をイメージした鮮やかな黄金色となった。

農業普及課では、補助事業の導入に当たり、作業効率の向上やコスト低減に関する指導・助言を行っている。



改修された種子センター

下呂農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月30日現在

今月の重点活動

■鳥獣害対策

農事改良組合長会議開催される

4月21日から28日にかけて5ヶ所で農事改良組合長会議が開催された。

農林事務所等の関係機関からは、今年は米戸別所得補償制度が本格実施されるため、申請方法等についての説明や、鳥獣害対策について各種助成制度の説明が行われた。

特に鳥獣害対策については、4月21日に下呂農林事務所に農作物鳥獣害被害相談窓口が設置され、気軽に相談してもらおうよう説明した。

農業普及課からは、ほ場全体を隙間なく囲うなどの電気牧柵の効果的な設置方法など具体的な鳥獣害対策のポイントについて説明を行った。



農事改良組合長会議（馬瀬町）

主要農作物の生産振興

■水稲

「飛驒のこめ」編集会議開催される

4月14日に「飛驒のこめ」の編集会議を行った。

この「飛驒のこめ」は、下呂地域および飛驒地域の水稲の標準的な栽培方法が書かれているチラシで、農業関係機関が中心になって作成している。

年4回の発行を予定しており、緊急の場合は、号外も発行される。

今回は、通常の栽培管理だけでなく、昨年度に多く発生した斑点米対策についても重点的に話し合われた。

農業普及課としては、米の高品質安定生産に向けてこの「飛驒のこめ」を使って各地で開催される「水稲青空教室」や農業改良組合長会議を通して、水稲の適切な栽培管理の普及をしていく。



「飛驒のこめ」編集会議（高山市）

■飛驒トマト

早期出荷のための新技術導入試験を開始

夏秋トマトは、他産地よりも早い時期に出荷し、量販店の売り場を確保する必要がある。また、7月下旬から8月中旬は、各産地の出荷が集中し、夏秋トマト単価が低迷する。そこで、7月上中旬に出荷量を確保する技術が求められてきた。

そこで、農業普及課では、新技術導入普及支援事業により下呂市萩原町の農家の協力を得て、夏秋トマトを早期出荷できる技術の試験を行っている。

この農家の圃場では、2月21日に播種した苗を4月3日に定植作業が行われ、4月26日には1段の花房の開花が始まっている。今後、農家と協力しながら生育調査を行い、夏秋トマトの早期出荷技術の普及につなげていく計画である。



定植されたトマト苗（4月3日）萩原町

■ 飛驒黄金

飛驒黄金の定植が始まる

下呂地域では、4月中旬より「飛驒黄金」の定植が始まった。今年の新規栽培者は1名で、4月13日に農協から苗を購入して1.5aほどの面積で栽培を開始した。その後、農業普及課の担当者と定植するほ場の状況や今後の栽培方法について確認した。

また、4月19日には、金山町で栽培している5人の農家、JA及び普及課で栽培現地研修会を実施し、挿し木した苗の状況、定植の方法など今後の栽培方法の確認をした。

普及課としては、新規の栽培者には、個別巡回を中心に、従来の栽培者には、研修会を通じて高品質な飛驒黄金の生産を推進していく。



飛驒黄金の定植を待つハウス（萩原町）



栽培現地研修会（金山町）

担い手の育成・確保

■ 指導農業士

下呂地区指導農業士会総会が開催される。

指導農業士会（会員7人）の総会が4月19日に下呂市下呂町で開催された。

指導農業士とは、優れた農業経営を実践し、高度な農業技術及び経営能力を有し、農村青少年の育成に熱意ある等と岐阜県が認めた農業者である。

総会では、農業大学の学生派遣学習の受け入れや下呂地区の農業後継者との交流会など今年の事業についての報告等があった。

今年度は7人の会員のうち3人が定年により退任した。

残された会員は、「来年度も下呂地区での農業の発展にむけて、少数精鋭でがんばっていきたい」と話した。

今後、活発な活動を推進するため、農業普及課としては、新しい会員の募集、確保を推進していきたい。

■ 新規就農者

今年、4月22日にUターンで地元で新規就農希望者に対して、農家の協力を得て、現地研修を行った。

農業普及課では協力農家への依頼など現地研修の準備を行った。

当時は、新規就農希望者、農家といっしょにトマトハウスのビニル張りなどの研修を実施した。

新規就農希望者も就農に対する手ごたえを感じていた。

今後も、引き続き支援していきたい。



研修する新規就農希望者

飛騨農林事務所農業普及課の普及活動状況

平成23年4月28日現在

今月の重点活動

■活力ある新産地づくり支援品目（飛騨黄金）

「飛騨黄金」新規栽培者を対象とした研修会の開催

J Aひだ花卉出荷組合主催による新規栽培者を対象とした黄色輪菊「飛騨黄金」のほ場準備研修会（3月30日、参加者22名）、定植研修会（4月12、13、15日、参加者28名）、摘心研修会（4月22、25、26日、参加者30名）が開催された。

今年は春の低温により苗の発根が遅れ、苗配布や定植時期が遅れているため、農業普及課の普及指導員からは適期に出荷するためには摘心時期が重要であることを強調して指導した。研修会に参加した新規栽培者は、儲かるキク作りを目指して、熱心に研修を受けていた。



ほ場準備研修会（古川町）

■活力ある新産地づくり支援品目（宿籬かぼちゃ）

かぼちゃ定植はじまる！

丹生川町折敷地の育苗施設では4月10日、20日、30日に宿籬かぼちゃ苗の配布が行われ、4月11日から今年度の定植が始まった。宿籬かぼちゃ研究会では昨年、一昨年と2年連続で不作となったほ場については輪作等かぼちゃの休作を勧めているため、今年度の会員数は188戸（前年比94%）、作付面積20.3ha（73%）と減少している。

今年度は12戸、30aがスナップエンドウを栽培し、輪作体系の組立にも取り組んでいる。



ハウスに定植された宿籬かぼちゃ
（丹生川町）

主要農作物の生産振興

■水稲

斑点米カメムシ対策検討会の開催

4月14日、J Aひだ高山営農センターにて飛騨農業振興会主催による「第1回水稲カメムシ等被害対策検討会」が開催された。

昨年、飛騨地域においてカメムシの吸汁害による斑点米が多く発生し、米の品質を下げる要因となったため、農林事務所、病害虫防除所、農協などの関係者で今後の対策としてのカメムシ発生予察調査、農薬試験、防除啓発などについて検討した。



対策検討会の様子

■飛驒トマト

トマト支部研修で単収底上げを目指す！

4月に入り、トマトの育苗が本格化してきており、丹生川トマト部会では10の支部ごとに育苗管理の研修会を実施している。4月20日には、新張支部の現地で研修会を開催し、生産者14名が出席した。

研修会では、農業普及課が講師となり、定植までに3段階までの花芽が形成されるので育苗は重要な作業であることを再認識してもらった後、温度や水管理のポイントなどについて説明を行った。

丹生川トマト部会としても、今年は単収を1人1t増加させることを目指して春先から既に数回の研修会を開催してきており、収量増加が期待される。



苗床での研修会（丹生川町）

■飛驒ほうれんそう

飛驒ほうれんそうの事故品削減を徹底！

4月5日、高山営農センターで農協の営農指導員が主体となり「出荷基準の関係機関検討会」が開催された。

例年、飛驒の春一番に出荷が始まる越冬ほうれんそうは黄化葉が発生しやすく、市場での評価を落とす原因となっている。

福島原発事故による放射性物質の影響で、ほうれんそうの出荷制限が行われている地域のある中で、良品質の飛驒ほうれんそうを消費者に食べてもらえるよう、関係する農協集荷場担当者、営農指導員、普及指導員約20名が集まり、出荷可能な品質の確認を行った。

この出荷基準の内容については4月6日の飛驒ほうれんそう統一目揃会でも検討が行われ、事故品削減に向けて周知徹底が図られた。



出荷基準の確認を行う参加者

担い手の育成・確保

■認定農業者

認定農業者が574名に増加！

4月25日、高山市農業経営改善計画認定書授与式並びに高山青年農業士認定証授与式が高山市役所にて行われた。

高山市は、農業の担い手づくりに熱心に取り組んでいるが、今回、新規の認定農業者が20名増加し、合計574名となり、県内の4分の1を占めるようになった。また、併せて市独自の青年農業士として新たに7名が認定された。

市長をはじめ来賓からは、574名の仲間と飛驒の農業を担うとともに、自らの経営確立に尽力するよう激励された。今後は、関係機関一丸となって、経営改善計画の実現に向けて支援していく。



新たに認定された方々

県内の産地の動きと専門普及指導員活動状況

農業経営課技術支援担当
平成23年4月28日現在

1 専門普及指導員としての活動、指導内容（対策、支援等）

（1）効率的・効果的な普及活動の支援

◆「ぎふ農山村男女共同参画プラン 第2次」の推進に向けて

県は平成23年3月、男女共同参画社会の実現に向けて、関係団体・機関が一体となって実践的に取り組む標記プランを策定した。①意識改革 ②経営参画 ③社会参画 ④環境づくりの4つの目標に5つの課題を設定し、5年を計画期間としている。

本プランでは、農林業者・J A・農業会議・市町村・県が達成に向けて役割を明確にし、任務を確実に実行することとしている。今後、研修会等あらゆる機会を通じ、プラン実現に向けての取り組みを行う予定である。
(男女共同参画担当：傍島千鶴)

（2）試験研究等で開発した先進的技術の現地への実証・普及

◆夏秋トマトにおける2期作への取組

本県産夏秋トマトは、純粋に雨よけ栽培でスタートしたことから、競合産地と比較し、出荷開始が遅れることが課題となっている。その解決を図るために、中山間農業研究所において開発された夏秋トマト2期作の取組が始まっている。標高700mを超える高山市丹生川町の現地圃場では、4月5日に1回目の定植が行われた。1段下の側枝を利用した2本仕立てにより密植化を図り、5段～6段で摘心する低段密植栽培とする予定であり、収穫は慣行作型より40日以上も早い6月1日の開始を目指している。1作目の残さ処理や2作目の定植労力の確保が課題となるが、作期の前進化と飛躍的な単収増加につながる技術として、地域に普及することが期待される。

(野菜担当：成田久夫)



◆パワーアップしたナシの交信攪乱剤の効果実証へ

県内ナシ産地では、フェロモンを利用した交信攪乱によるシンクイムシ防除が普及しているが、夏期の溶出が早く中生品種の豊水で効果が不安定であった。そこで、昨年発売された安定した効果が望める新剤について、生産者、J A、普及課を対象に使用法等の指導支援を行った。

(病虫害担当：鈴木俊郎)



（3）県下の技術の統一

◆「キュウリ黄化えそ病」撲滅に向けて

ウイルスによって引き起こされる「キュウリ黄化えそ病」の被害が県内全域に広がっている。本病害の拡大は農家経営や産地の維持発展に与える影響が大きいことから、3月23日並びに4月20日に関係普及課、試験場、防除所、農業経営課技術支援担当による対策会議を開催し、関係機関が連携して今後の調査、対策技術の実証普及を進めることとした。

(病虫害担当：鈴木俊郎)

(4) 行政及び関係機関との連携及び情報の提供

◆「農業で夢再発見研修」が始まり、県内外からの9名が受講

新規就農を目指す社会人などを対象とした、農業経営の知識と技術を習得するための就農支援研修会「農業で夢再発見研修」が今年も4月15日から始まった。県内外から、9名が受講している。

4月28日には「就農に向けての準備と心構え」をテーマとして講義を行い、就農するために必要な準備事項や支援制度等について情報提供した。この研修を通じ、全受講者がそれぞれの夢の実現にむけ就農できることを期待するとともに、今後必要な支援について関係機関とともに対応していく。

(担い手担当：浅井義男)